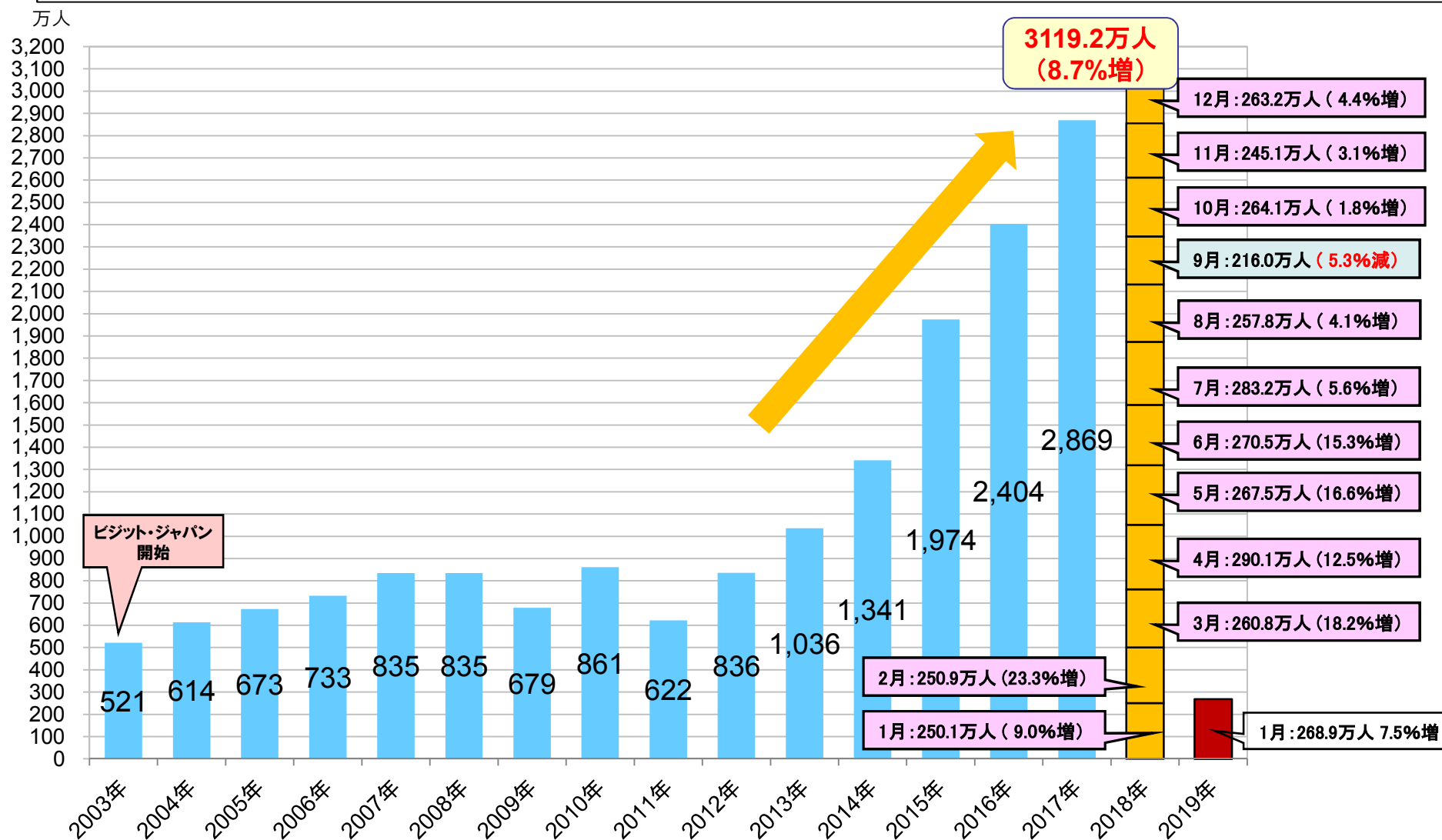


訪日誘客支援空港の認定等に関する懇談会 (平成30年度フォローアップ会議①)

1. 地方空港におけるインバウンドの現状

訪日外国人旅行者数の推移

○訪日外国人旅行者数は種々の施策の効果から、近年急激に拡大しており、2013年には1,000万人、2016年は2,000万人を超え、2018年は3,119万人に拡大。

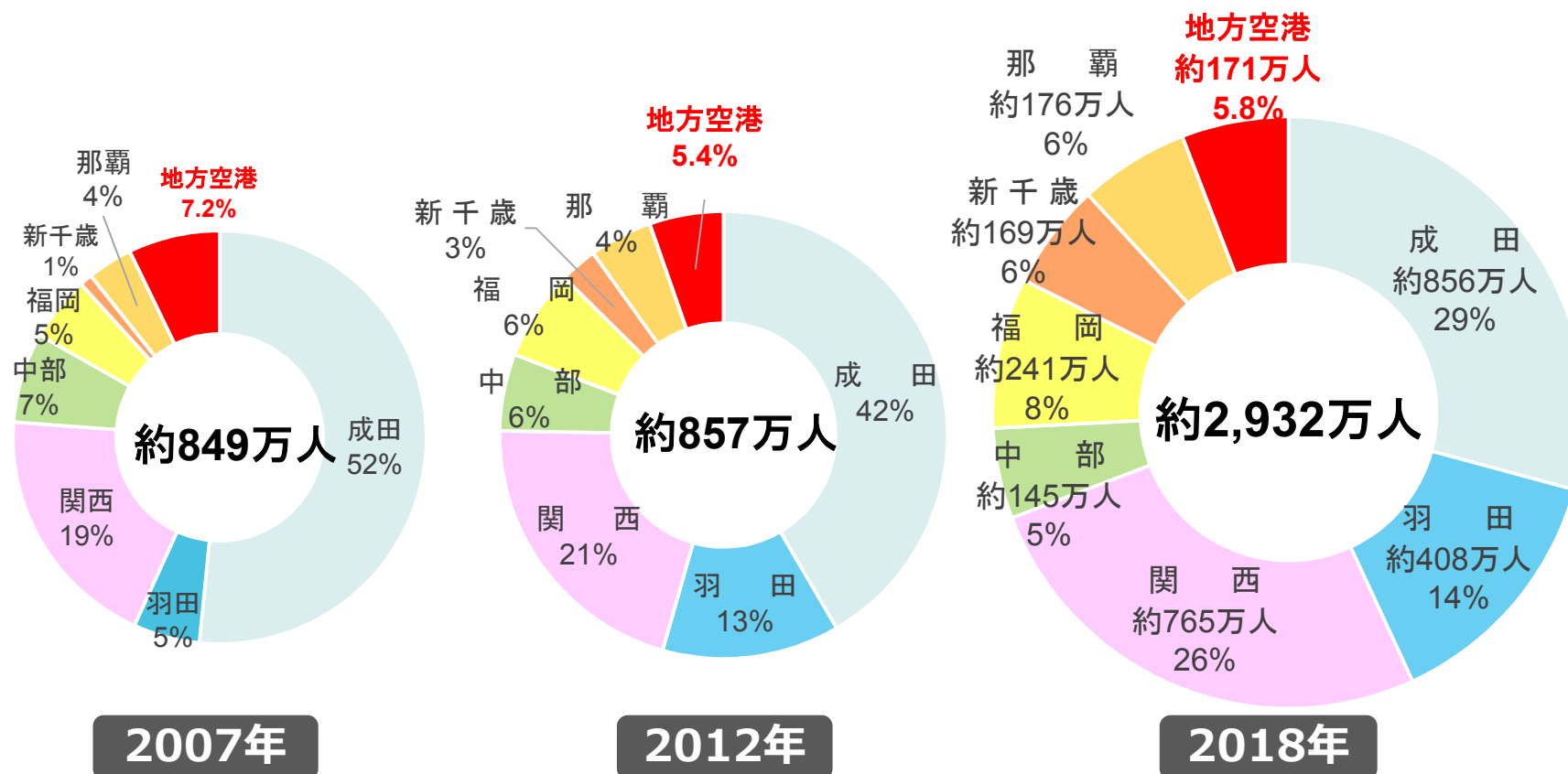


注) 2017年以前の値は確定値、2018年1月～11月の値は暫定値、2018年12月～2019年1月の値は推計値、%は対前年同月比

入国外国人人数 空港別割合(2007年・2012年・2018年)

※地方空港＝主要7空港(羽田、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇)を除く空港

○インバウンド拡大のなか、関西空港をはじめとする首都圏空港以外のシェアが拡大。
 ○地方空港のシェアは、インバウンドが拡大するこの10年で、わずかながら低下。



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成

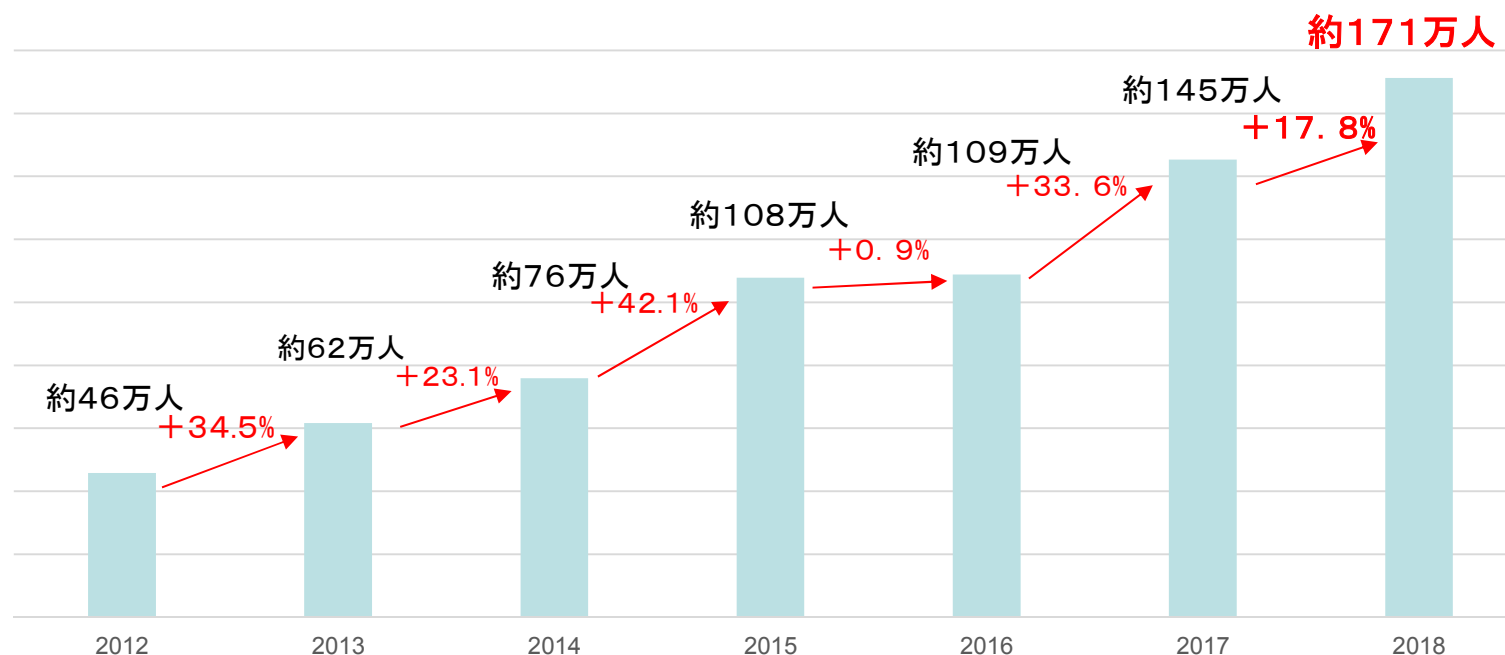
※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

※2018年の数値は1月～12月までの速報ベース。

○地方空港の入国外国人人数は2012年～15年の3年間で約2.4倍に拡大。
○2016年は増加が一服し、入国外国人人数は微増となるも、2017年以降は再び増加率が拡大。

※地方空港＝主要7空港(羽田、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇)を除く空港

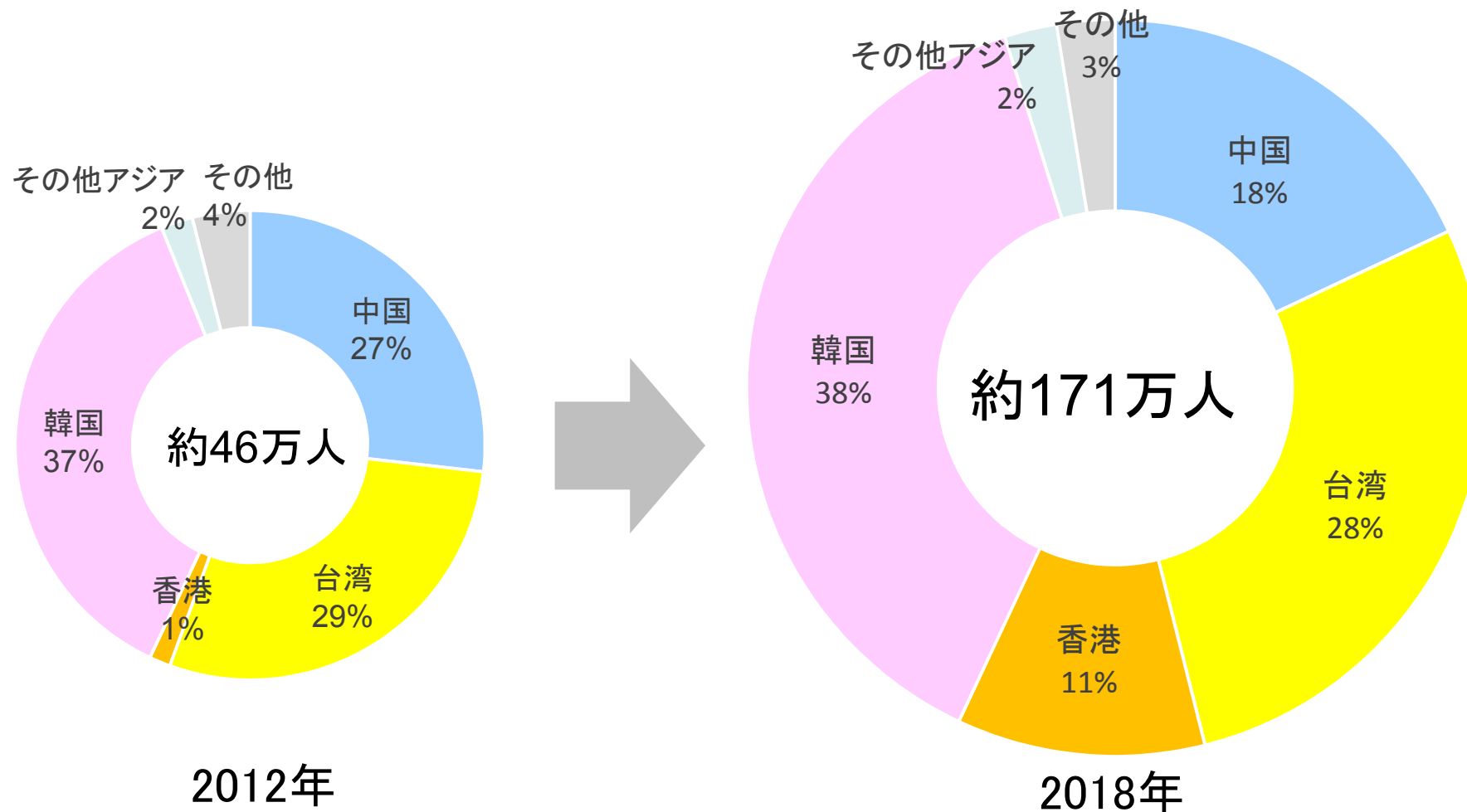
地方空港の入国外国人人数(推移)



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成

地方空港の入国外国人人数(市場別動向)

- 地方空港は、東アジア4市場（中国、台湾、香港、韓国）からの外国人が約95%。
- 近年は、中国のシェアが低下し、香港のシェアが拡大。



(出典) 法務省「出入国管理統計」より航空局作成

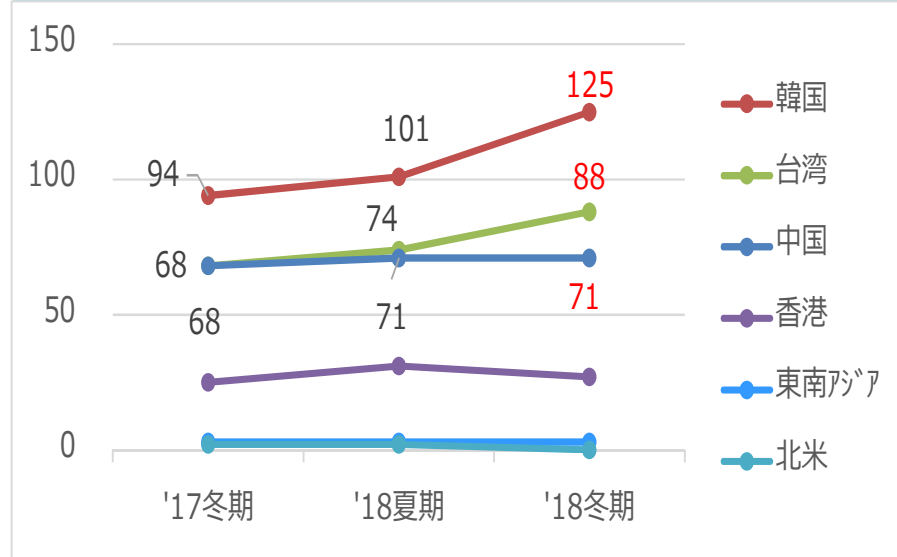
※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

2018冬期 国際線(旅客便) 空港別推移(地方空港)

【花巻】タイガーエア台湾が台北線を初就航(18夏期中～)。
 【茨城】タイガーエア台湾が台北線を初就航。
 【北九州】スターフライヤーが台北線を初就航、ティーウェイ航空が務安線を増便。
 【佐賀】タイガーエア台湾が台北線を初就航。
 【熊本】ティーウェイ航空が、大邱線を初就航。
 【鹿児島】済州航空が、大邱線を初就航。

単位：便/週

その他	'17冬期	'18夏期	'18冬期
韓国	94	101	125
台湾	68	74	88
中国	68	71	71
香港	25	31	27
東南アジア	3	3	3
北米	2	2	
合計	260	282	314



単位：便/週

空港	17冬期	18夏期	18冬期
鹿児島	22	26	35
北九州	14	14	29
広島	29	30	27
仙台	26	21	26
岡山	21	23	23
高松	20	20	22
静岡	23	22	18
熊本	9	12	15
小松	12	14	14
函館	11	12	12
佐賀	10	12	12
茨城	6	6	11
宮崎	7	11	10
新潟	10	10	10
富山	8	11	9
米子	5	7	8
大分	7	7	7
青森	7	5	7
松山	3	5	7
長崎	5	5	5
山口宇部	3	0	3
石垣	2	8	2
花巻	0	0	2
旭川	0	2	0
合計	260	282	314

※訪日誘客支援空港
 以外は灰色で着色

訪日誘客支援空港

- 訪日誘客支援空港については、地元の取組や意欲が一定レベルにあるものを幅広く認定することとし、**以下の27空港※を認定（平成29年7月）**。
- その際、空港毎に誘客実績等が異なる実情に合わせ、より効果的な支援を講ずる観点から、認定空港を以下の3カテゴリーに区分。※バンドリング予定の北海道6空港は1とカウント

訪日誘客支援空港（拡大支援型） 計19空港

訪日誘客に一定の実績をあげているうえ、拡大に向けた着実な計画・体制を有しており、国の支援（運航コスト低減やボトルネック解消等）を拡大することにより、訪日旅客数のさらなる増加が期待される空港

静岡、仙台、熊本、茨城、北海道（稚内、釧路、函館、女満別、帯広、旭川）、高松、広島、北九州、米子、佐賀、新潟、小松、青森、徳島、鹿児島、南紀白浜、岡山、山口宇部、松山

※「訪日誘客支援空港の認定等に関する懇談会」（座長：東京女子大学竹内健蔵教授）による評価平均が80点以上の空港
※国による支援：インバウンド割引制度（拡充含む）、「地方空港受入環境整備事業費補助金」及び「C I Q施設整備補助」による支援

訪日誘客支援空港（継続支援型） 計6空港

訪日誘客に一定の実績をあげているうえ、着実な計画・体制を有しており、引き続き、国の支援（運航コスト低減やボトルネック解消等）を実施することにより、訪日旅客数のさらなる増加が期待される空港

長崎、那覇、大分、宮崎、花巻、福島

※「懇談会」による評価平均が80点未満の空港
※国による支援：インバウンド割引制度、「地方空港受入環境整備事業費補助金」の一部による支援

訪日誘客支援空港（育成支援型） 計2空港

訪日誘客に高い意欲を持ち、国による伴走支援（戦略立案策定等）により、訪日旅客数の増加が期待される空港

松本、下地島

※「懇談会」評価平均が80点未満の空港のうち、ターミナル改修等の計画が確認でき、国による伴走支援が効果的と考えられる空港
※国による支援：継続支援型と同様の支援＋航空局・観光庁・JNTO等による訪日誘客実現に向けた戦略・計画策定等の伴走支援

航空路線誘致促進に係るJNTOの取り組み ～航空路線拡大に向けたプロモーション活動の展開～

日本の魅力を、日本のチカラに。



【プロモーション実施事例】

＜セミナー開催＞

キャセイパシフィック航空との
イタリアにおけるセミナー開催



- 実施日 : 2018年6月
- 実施内容 : ローマベースのツアーオペレータとのネットワーキングを目的としたセミナーを開催。キャセイパシフィックより、機体、サービス、日本発着のフライト等に関して、JNTOより訪日に関する全般的な情報及び、キャセイパシフィックが発着するデスティネーションをプレゼンテーション。

＜共同広告＞

フィリピン航空とのバナー広告等
による共同広告実施



- 対象路線 : マニラ⇨新千歳の新規就航
- 実施期間 : 2018年8月～9月
- 実施内容 : ウェブおよびSNSでの情報発信。フィリピン航空の公式ウェブページに誘引することで、新規路線のPRならびに訪日への興味喚起を促し、フィリピンからの訪日旅行者数の増加促進を図った。

＜インフルエンサー招請＞

香港エクスプレスの就航PRを目的
としたインフルエンサーの活用



- 対象路線 : 香港⇨熊本のチャーター便就航
- 実施期間 : 2017年11月～12月
- 実施内容 : 香港エクスプレスのチャーター就航を契機としたPRキャンペーンの一環として、若者に人気のYouTuber、Sunny氏を招請。熊本便の就航、自然や温泉などの観光魅力を紹介。

※香港⇨熊本線は2018年5月に定期便化

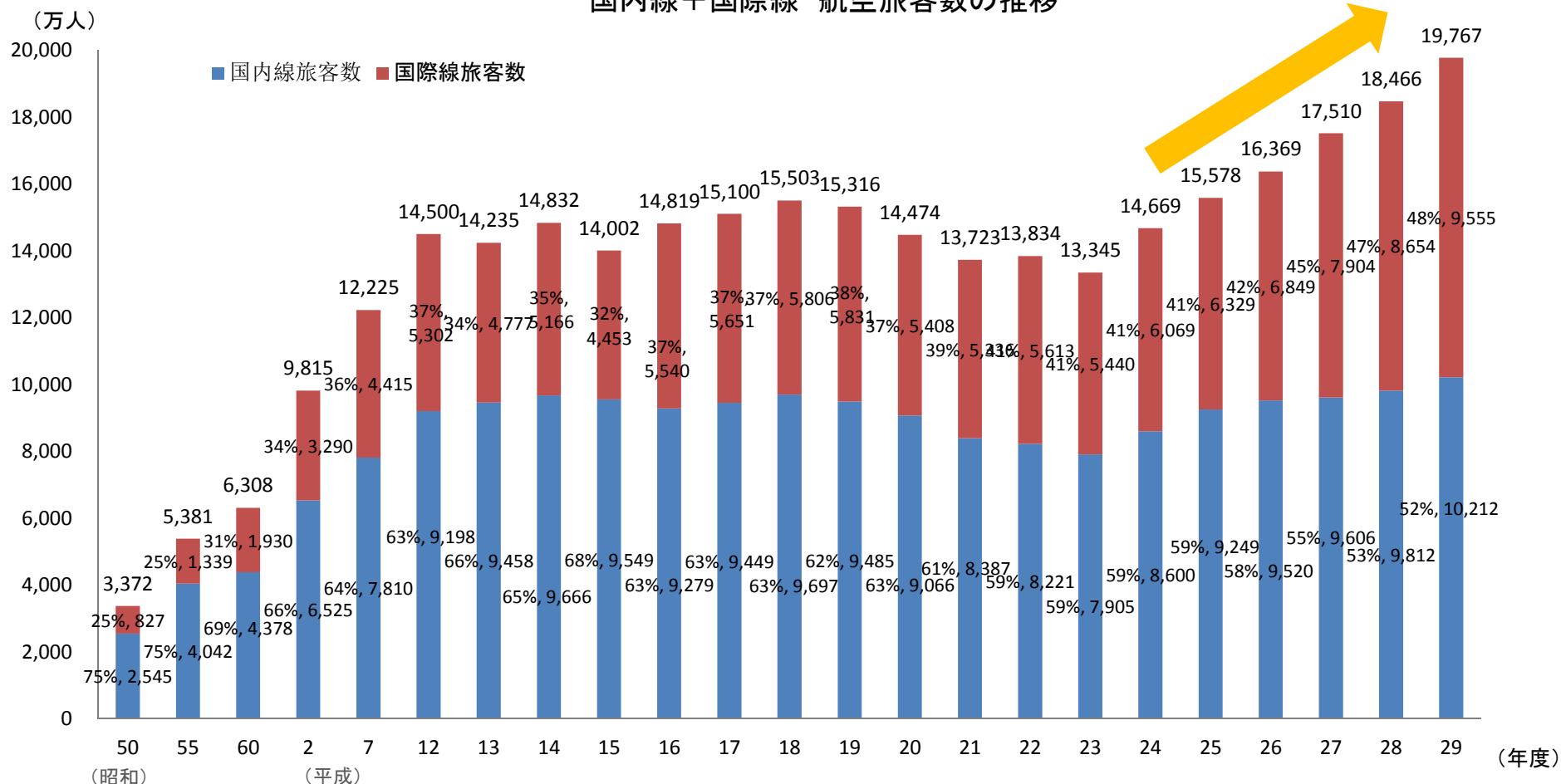
我が国航空旅客輸送の動向

○我が国航空旅客数は拡大局面にあり、国際線旅客が牽引している。

国際線旅客数： **約 1.57倍** (H29：9,555万人←H24:6,069万人)

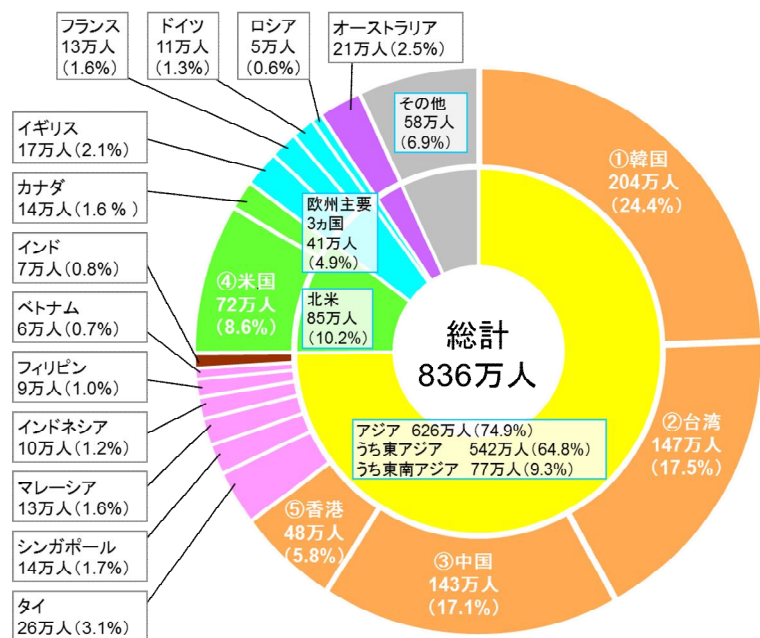
国内線旅客数： 約 1.19倍 (H29：10,212万人←H24:8,600万人)

国内線+国際線 航空旅客数の推移

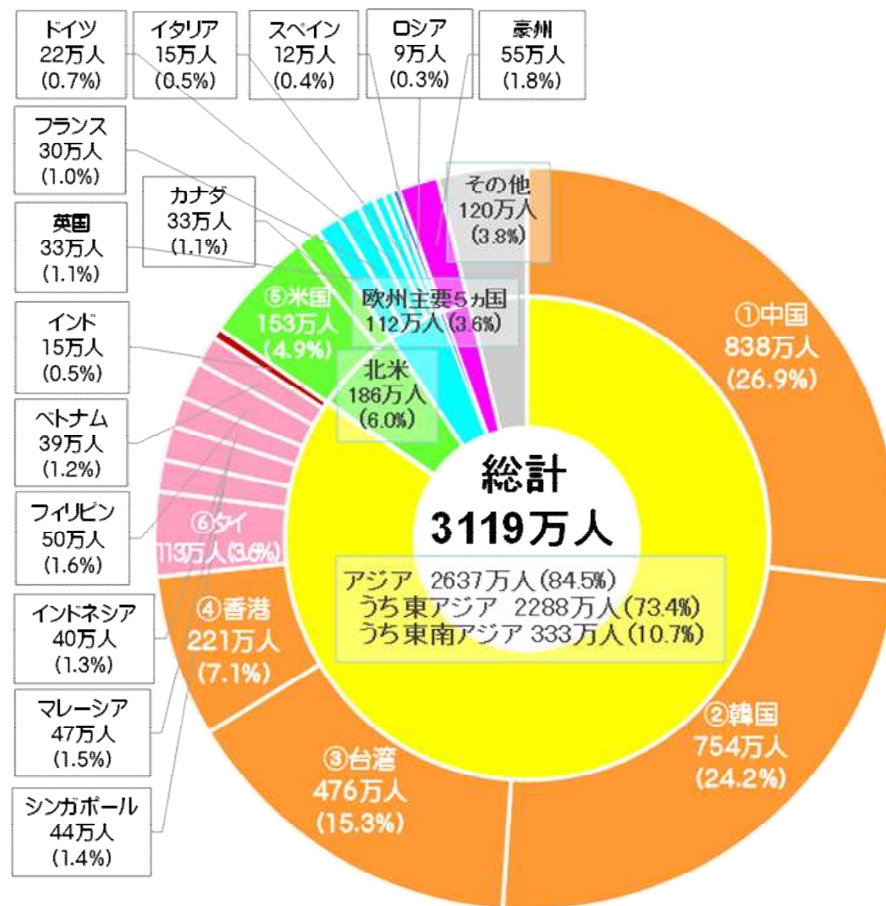


訪日外国人旅行者数(市場別)推移

- 訪日外国人旅行者のうちアジアからの旅行者が8割以上を占める。
- 近年は、中国のシェアが拡大しており、香港のシェアも微増傾向にある。



2012年

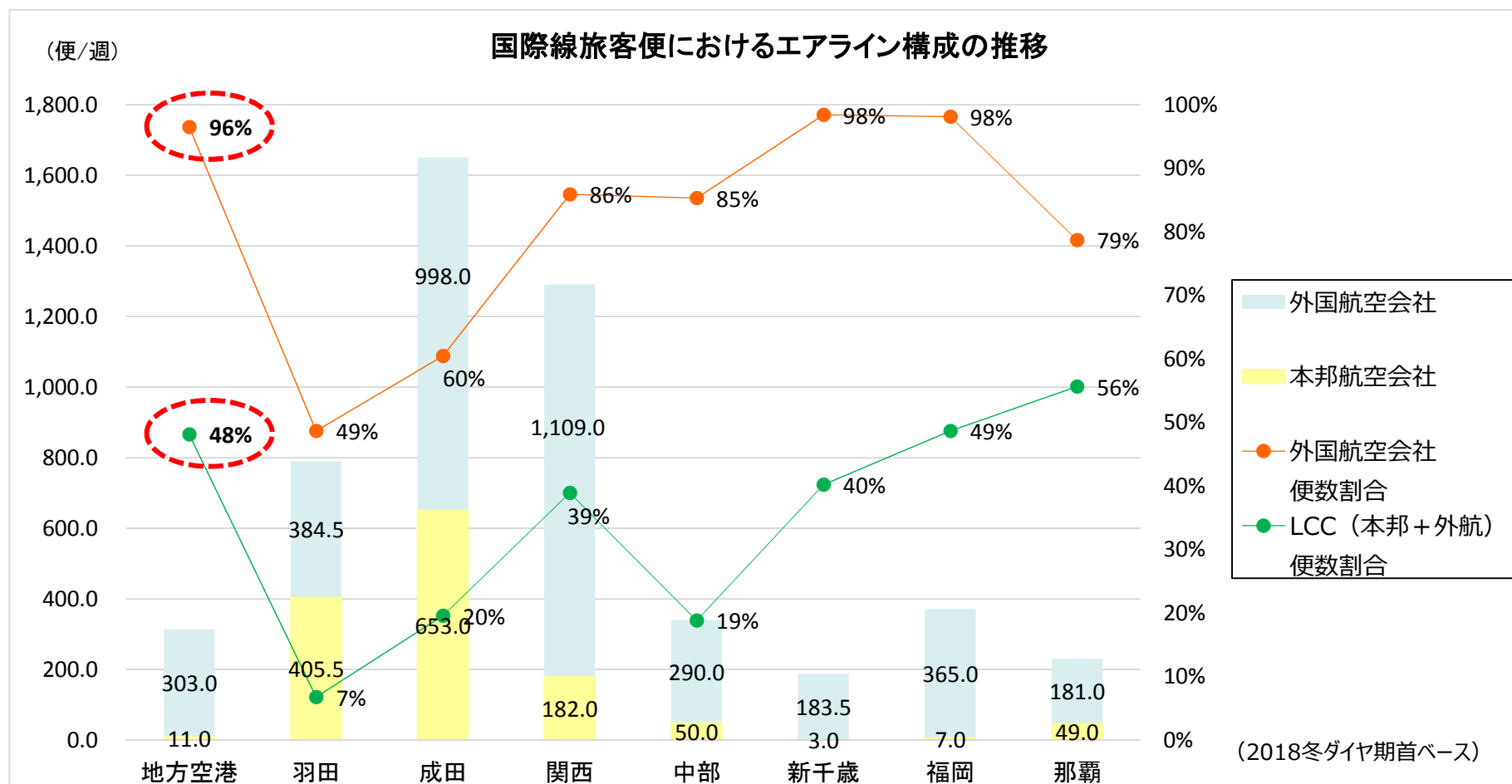


2018年

※ ()内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア
 ※ その他には、アジア、欧州等各地域の国であっても記載のない国・地域が含まれる。
 ※ 数値は、それぞれ四捨五入によるため、端数において合計とは合致しない場合がある。
 ※ 日本政府観光局(JNTO)資料より観光庁作成

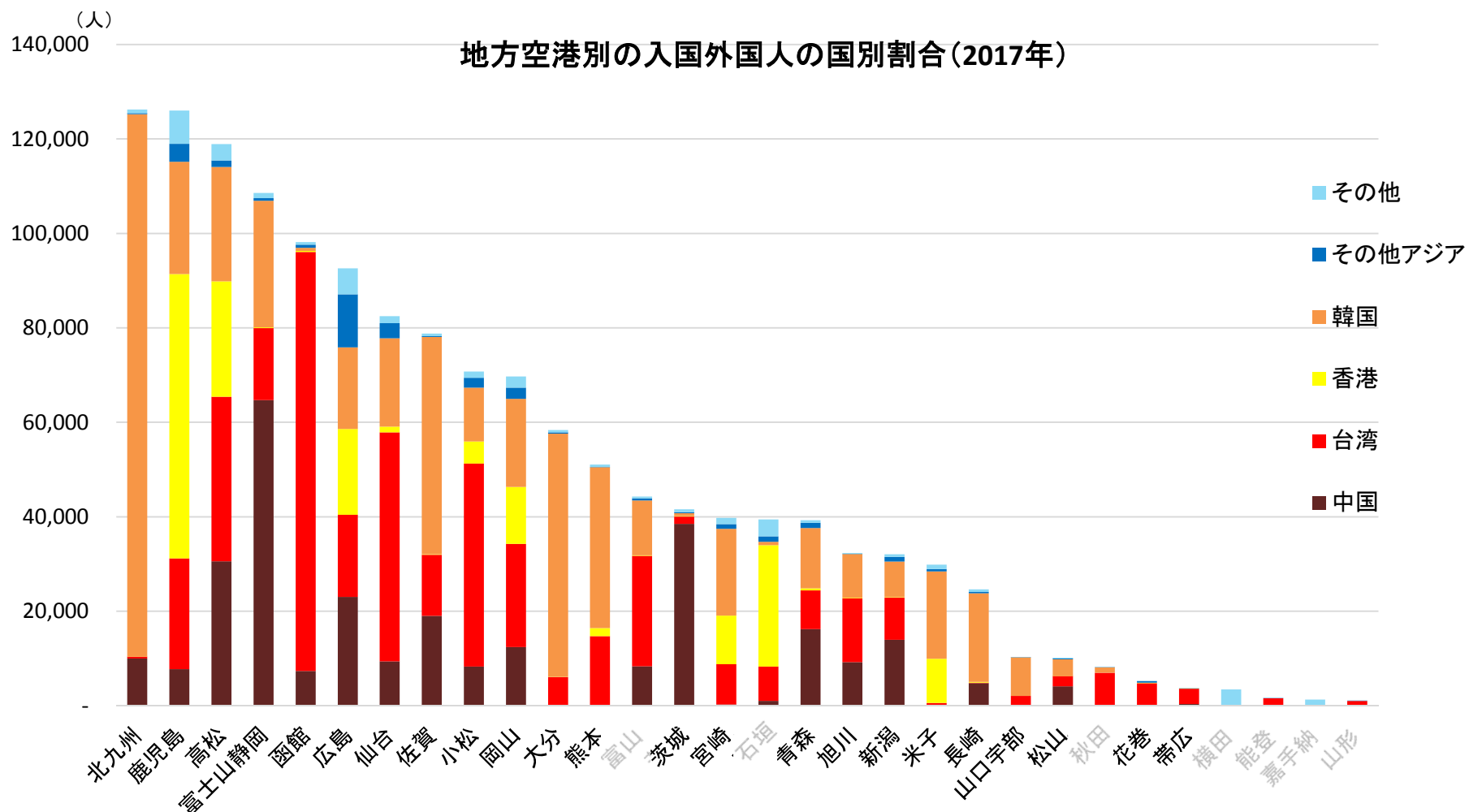
インバウンドの拡大とエアライン構成

- 国際線に占める外航社の割合は、首都圏→三大都市圏→地方空港となるほど高まり、地方空港においては、ほぼ100%に及ぶ。
- また、地方空港ではLCCの割合が約5割を占めている。



地方空港別における入国外国人人数(国別・2017年)

○いずれの地方空港においても、東アジア4市場からの送客が大半を占める。
 ○香港からの入国は西日本に地理的偏りがある。



(出典) 法務省『出入国管理統計』より航空局作成 (2017年)

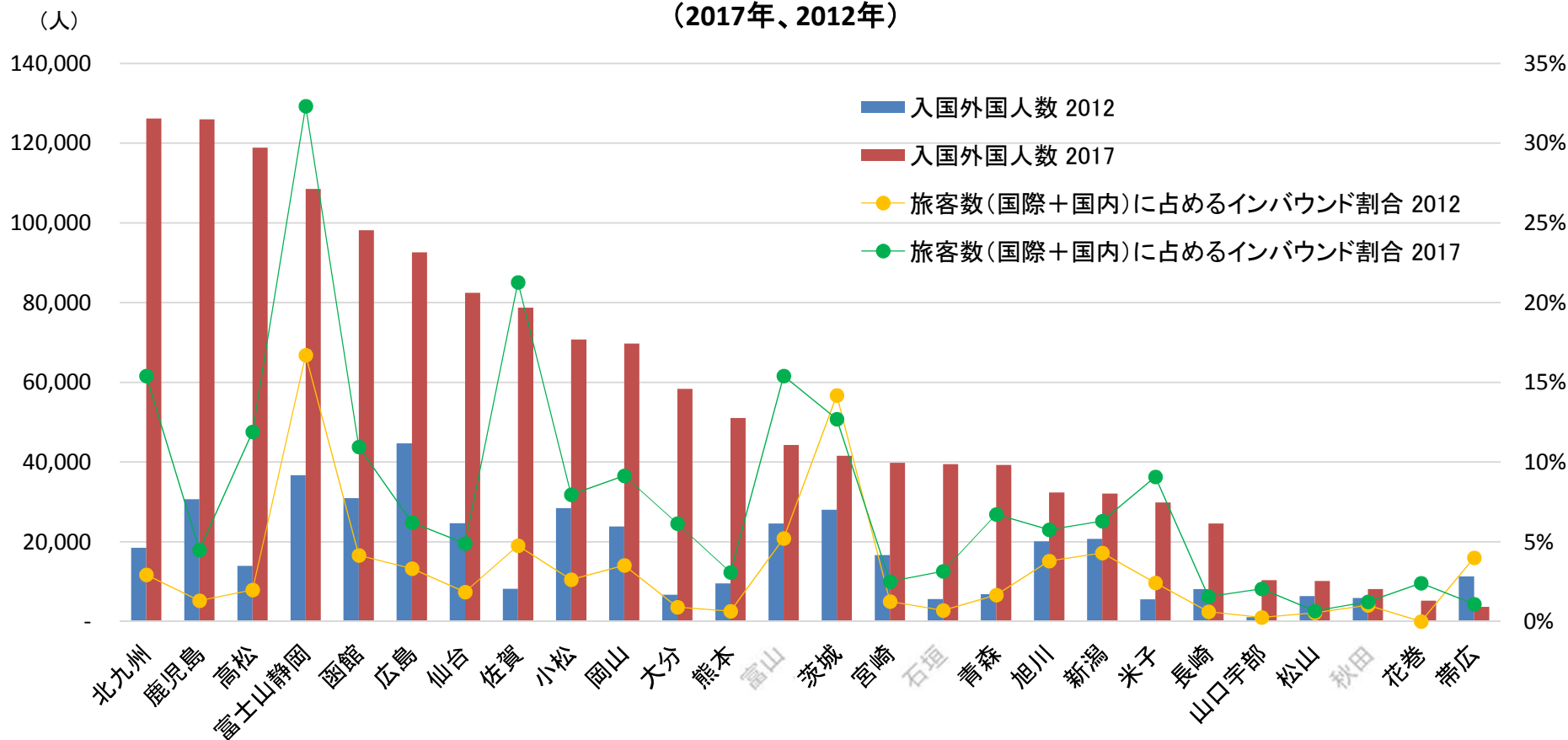
※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。入国外国人人数が1,000人以上の空港を集計

※訪日誘客支援空港以外の空港は、灰色で記載

地方空港に占める入国外国人

- 各地方空港において、インバウンドの存在感は拡大している。
- 一方、インバウンド割合は一部の空港を除き、1割程度未満にとどまる空港が多い。

空港別入国外国人数と旅客数(国内+国際)に占める割合
(2017年、2012年)



出典)航空局「空港管理状況調書」及び法務省「出入国管理統計」より、航空局作成
 注)地方空港のうち、2017年の入国外国人数3,500人以上の空港を集計
 注)インバウンド割合は異なる統計の組み合わせのため、便宜的な算出値にすぎない。
 注)訪日誘客支援空港以外の空港は、灰色で記載

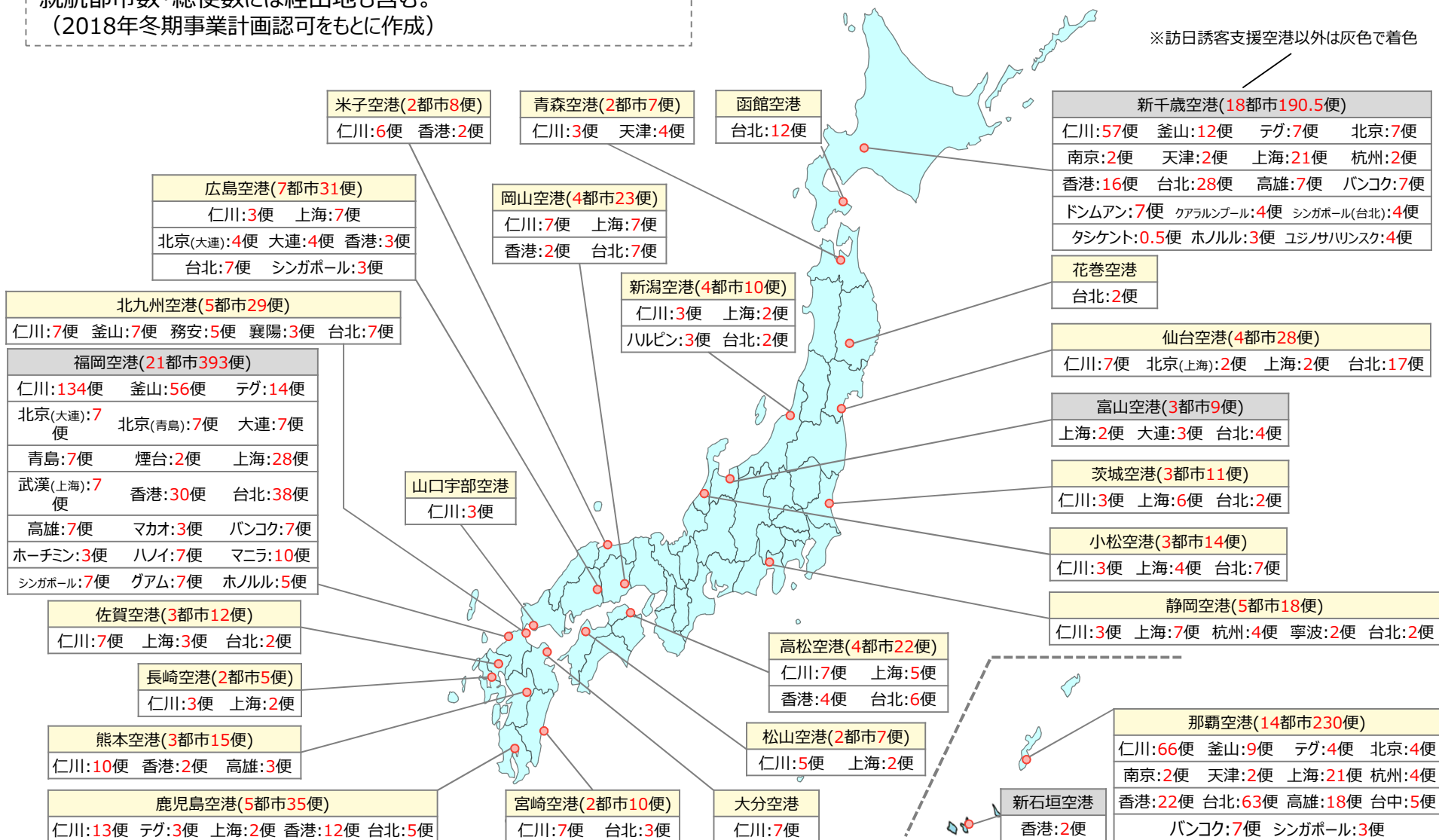
地方空港における国際航空ネットワークの展開

2018年冬期ダイヤ当初における週当たりの国際定期旅客便数。

【表記：行き先（経由地）】

就航都市数・総便数には経由地も含む。

（2018年冬期事業計画認可をもとに作成）



我が国への外航LCCの就航状況(定期便)

○ 日本において計20社の外航LCCが就航 (うち地方空港への就航は8社)

黒字：7大空港
赤字：地方空港

国・地域	航空会社	乗入年月日	日本就航路線	備考
韓国 	済州航空	09年 3月20日	成田 関西 福岡 新千歳 中部 那覇 松山 旭川 鹿児島	
	エアプサン	10年 3月29日	成田 関西 福岡 新千歳 中部	アジアナ航空46%出資
	ジンエアー	11年 7月15日	成田 関西 福岡 新千歳 北九州 那覇	大韓航空100%出資
	イースター航空	11年 5月 5日	成田 関西 福岡 那覇 鹿児島 新千歳 宮崎 茨城	
	ティーウェイ航空	11年12月20日	成田 関西 福岡 新千歳 中部 那覇 大分 熊本 佐賀 北九州	
	エアソウル	16年10月 7日	成田 関西 福岡 静岡 那覇 高松 長崎 広島 米子 熊本 山口宇部	アジアナ航空100%出資
中国 	春秋航空	12年 6月23日	羽田 関西 新千歳 中部 高松 佐賀 茨城	
	中国聯合航空	18年8月15日	福岡	中国東方航空100%出資
香港 	香港エクスプレス航空 (香港快運航空)	13年11月 8日	成田 羽田 関西 福岡 中部 高松 広島 熊本 鹿児島 石垣	
台湾 	タイガーエア台湾	15年 4月 2日	成田 羽田 関西 福岡 中部 小松 那覇 岡山 仙台 函館 旭川 花蓮 茨城 佐賀	
シンガポール	ジェットスター・アジア航空	10年 7月 5日	関西 那覇	カンタスグループ49%出資
	スクート・タイガーエア	12年10月29日	成田 関西 新千歳	シンガポール航空100%出資 17年7月25日にスクートから社名変更
マレーシア	エアアジアX	10年12月 9日	羽田 関西 新千歳	エアアジア16%出資
フィリピン	セブパシフィック航空	08年11月20日	成田 関西 福岡 中部	
タイ	タイエアアジアX	14年 9月 1日	成田 関西 新千歳 中部	エアアジアX49%出資
	ノックスクート	18年6月1日	成田 関西	ノックエアー (タイ) とスクート・タイガーエア (シンガポール) のJV
	タイ・ライオンエアー	18年12月7日	成田 中部 関西	ライオングループ49%出資 中部は2019年1月16日(水)、 関西は2019年3月2日(土)に就航予定
インドネシア	インドネシアエアアジアX	17年 5月 25日	成田	エアアジアX49%出資
ベトナム	ジェットスター・パシフィック	17年 9月 1日	関西	ベトナム航空30% カンタスグループ70%出資
オーストラリア	ジェットスター航空	07年 3月25日	成田 関西	カンタスグループ100%出資

※2018年度に乗入を開始

地方空港における国際線就航事業者①

○地方空港就航線は、**2014年:15社 220便/週 → 2018年:24社 314便/週へ拡大**
 ○エアライン別には、急速に路線拡大中の事業者と安定して路線運航する事業者に分かれる。

	航空会社	'14W	'17W	'18W	就航地方空港（就航便数の多い順）
中国	中国東方航空	45	37	37	静岡、広島、岡山、小松、鹿児島、松山、新潟、長崎
	春秋航空 (LCC)	22	14	14	茨城、高松、佐賀
	中国国際航空	14	6	6	広島、仙台
	中国南方航空	5	5	6	新潟、 富山
	奥凱航空		2	4	青森
	北京首都航空		2	2	静岡
	上海航空	2	2	2	富山
台湾	中華航空	28	31	30	広島、高松、鹿児島、富山、熊本、 宮崎 、静岡
	タイガーエア台湾 (LCC)		16	27	仙台、 岡山 、 函館 、 花巻 、 茨城 、 小松 、 佐賀
	エバー航空	16	16	18	函館、 仙台 、小松
	遠東航空	5	1	2	新潟

(単位：便/週)

※国際線期首ダイヤより作成
 ※17年冬ダイヤと比較し、18年冬ダイヤに増便している空港は赤字で記載
 ※LCCは青字で記載

地方空港における国際線就航事業者②

	航空会社	'14W	'17W	'18W	就航地方空港（就航便数の多い順）
香港	香港エクスプレス (LCC)		14	16	鹿児島、高松、広島、新石垣、 熊本
	香港航空	2	11	11	鹿児島 、米子、岡山
韓国	エアソウル (LCC)		27	28	高松 、 米子 、静岡、広島、長崎、山口宇部、 熊本
	大韓航空	29	22	19	岡山、青森、新潟、小松、鹿児島
	ティーウェイ航空 (LCC)	7	18	23	大分、佐賀、 熊本 、 北九州
	ジンエアー (LCC)	3	14	14	北九州
	イースター航空(LCC)		2	14	鹿児島 、 宮崎 、 茨城
	済州航空(LCC)		1	11	鹿児島 、 松山
	アジアナ航空	32	10	10	仙台、宮崎
	コリアエクスプレス			6	北九州
その他	スターフライヤー			7	北九州
	ピーチアビエーション (LCC)		4	4	仙台
	シルクエアー		3	3	広島
	ユナイテッド航空	7	2		仙台
	ハワイアン航空	3			仙台
	総計	220	260	314	

(単位：便/週)

※国際線期首ダイヤより作成
 ※17年冬ダイヤと比較し、18年冬ダイヤに増便している空港は赤字で記載
 ※LCCは青字で記載